

議会活性化にむけ検討委発足

市民に開かれた議会、わかりやすく活発な論戦のできる議会へ

合併して1年が経過し、議会のあり方が問われています。21万市民の声を反映し、文字通り市民が主役の市政をつくるために議会はどうかあるべきか、真剣に検討すべき時がきています。

このほど発足した市議会の議会活性化検討委員会(小林章吾委員長)では、検討課題の確認と検討のやり方について議論が交わされました。その結果、合併前上越市の議会の検討委員会が審議され、「今後の検討課題」として残されているものを再度検討する、合併後1年を経過した中で、本会議、委員会などの運営手法・あり方について検討すべき課題を各会派が出し合い、検討することを確認しました。では、で出された課題とだぶらないものが対象となります。

合併前上越市の議会で「今後の検討課題」とされていた課題の中には、休日議会の開催のように、これまで合併前の1

3町村議会のいくつかで実際に取り組まれていたものもあります。また、常任委員会審議では首長が参加している町村もありました。それだけに、検討委員会では活発な議論が展開されるものと思われま

日本共産党市議団では、議会改革についてはこれまで積極的な提案を出しながら論議に参加してきました。今回の検討委員会においては、読者の皆さんからも「意見・ご提案をお寄せいただいて議会活性化を実現していきたい」と思います。ご協力よろしくお願

合併前上越市議会検討委員会で、「今後の検討課題」とされた事項

- 一般質問における質問席の設置
- 休日、夜間議会の設置
- 議会活動に対するアンケート調査の実施
- 市民との意見交換会や懇談会、共同シンポジウムの開催
- 委員会審議のテレビ中継の実施
- 政治倫理条例の策定・検討



上の写真は上越市議会一般質問の様子。下は旧吉川町議会の一般質問です。吉川では質問席があり、質問者と答弁者が対面でやりとりできました。

党新潟県委で雪対策の先進地調査へ

日本共産党新潟県委員会では21日、22日と長野県栄村、十日町市松之山などで雪対策の先進的な取り組み事例を調査することになりました。

これは、国や県の雪対策の制度が新年度から後退する可能性があるなかで、こうした動きと効果的にたたかう政策提言をまとめていくのが目的です。

栄村は「小さくても輝く自治体」として全国から注目されています。雪対策では、雪による障害の克服と雪の利用促進などの基本を定めた総合雪対策条例を持っていますし、老人世帯住宅、生産施設などの除排雪、児童・生徒の通学援助、生産・生活物資の輸送援助などを業務内容とした雪害対策救助員制度を設けていることでも知られています。また松之山は、冬期保安要員制度の積極的な活用などで実績があります。



一緒に調査に参加したいという方は市議団までご連絡下さい。(写真は浦川原区上猪子田)

日本共産党上越市議団ニュース

38 2006年2月19日

連絡先	杉本敏宏	524-3787	(東本町5)
	樋口良子	544-6802	(中門前3)
	橋爪法一	548-3628	(吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203	(頸城区中柳町)